

それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。主の恵みを」

哀歌 3章 21、22節

新型コロナウイルスが蔓延し多くの人の日常失われました。当たり前だと思っていた、学校へ行く、会社へ行く、買い物に行く、そして教会に行くということが妨げられています。科学技術が発達した現代ですが、ウイルスという人の肉眼では見ることができない小さなものに私たちは振り回され、恐れを抱えています。

そのような私たちに、哀歌3章は慰めと励ましを与えます。

ユダはバビロンに滅ぼされ、イスラエルの象徴であったエルサレムは破壊されました。1章から3章には自分たちが置かれ

ている状況への深い悲しみと嘆き、また出口が見えない苦しみが述べられています。彼らは自分の力、人間の力では望みを見出すことができないどん底にいたのです。

しかし、その状況で告白するのです。「それゆえ、私は言う。『私は待ち望む。主の恵みを。』」

人間的には自分たちの状態に何も希望を見出せません。自分にも、他の人にも救いを期待できない状況です。

だからこそ、主に信頼し、主に期待し、主を待ち望むのだ、というのです。

これこそが私たちキリスト者に与えられた希望です。自分はまだ駄目だと思うところから自分を立ち上げさせるのは主なる神です。自分の頑張りではないのです。私たちは時に苦しみを通りますが、実は、主はそこに助けと支えを与えておられます（31～33）。主に全面的に信頼する人には、困難と思える状況でも尽きることなく注がれている主の恵みと憐れみが見えてくるのです。そのような人を通して主の回復の御業は世に現されます。

私たちは、ただ、家に閉じこもるしかできない状況に無力を感じます。しかし、だからこそ主にのみ期待し、主が私たちに恵みを注いでおられることを信じて、恵みを受け取りましょう。（泰）

■JEA（日本福音同盟）祈祷要請（一部）  
「一つの部分が苦しめば、すべての部分とともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。」

コリント人への手紙第一 12 章 26 ～ 27 節

4月20日、JEA理事会がもたれました。6月初旬に、つま恋リゾート（掛川市）を会場に予定されていたJEA総会を、代議員が集まることなく、書面による決議とすることなどを決めました。そして、各教団、教会、団体が今、新型コロナウイルスの逆風の中で、多くの集会やイベントを中止あるいは延期し、苦しみや迷いを覚えていることが分かち合われました。そのような今、JEA理事会は、加盟する会員、協力会員の皆さまに、このような時こそ主にある協力和祈りを共にしていただくことを願ひ、呼びかけます。

今月私たちは、受難週とイースターというキリスト教の暦の中でも、もつとも大切な期間を過ごしました。しかし折からの緊急事態宣言の発出によって、教会の喜びと希望の日の、礼拝、CS、祝会、聖礼典、祈祷会等々が、大きな制約のもとでなされることを強いられることになりました。一方には、信仰生活の中心である礼拝を守り続けることに、自律的決断とさまざまな工

夫を尽くす教会があり、他方には、隣人を愛するがゆえの決断として、礼拝に集まることを中断して、オンライン礼拝や説教の配布等で対応している教会があります。それに伴って、「聖徒の交わり」の実質を考え、「キリストのからだ」である教会の意義が改めて問われる思いが致します。感染に関わる不安や、財政の逼迫から来るストレスにさらされている方もあるでしょう。JEA理事会では、このような時にこそ、私たちは信仰者としての交わりの実質を現わし、キリストのからだであるお互いの苦しみや喜びを共有し、今できることをして行きたいとの願ひを共有しました。

（1）援助協力委員会では、災害対策・援助協力の働きの検討を始めます。

（2）神学委員会では、オンライン礼拝や聖礼典のあり方や今回の事態の神学的な検討に取り掛かります。

JEAの諸方面の取り組みが機能するためには、皆さまのご協力和祈りが不可欠です。総主事を軸に、皆さまからの情報を頂き、思いを伺い、それを生かしてJEAならではの、神の国の民に相応しい協力のインフラを機能させることを目指します。共に祈り、主からの平安に満たされ、孤立ではなく、交わりの中で頂く慰めや励ましを分かち合いたいと願っています。ぜひ心を合わせてお祈りください。